

第 72 回 明の衰退

1 北虜

・15 世紀に入ると、明は（ ）と呼ばれる外交問題に苦しむようになり、これが明の衰退を早めたとされる。

- ・北方に撤退したモンゴル人だったが、再び勢力を取り戻して中国に侵入してきた。
- ・1449 年、モンゴルの（ ）を率いる（ ）によって、明の（ ）が北京近郊の土木堡で捕虜となる（ ）が起こった。
- ・（ ）の（ ）もたびたび中国に侵入し、1550 年には北京を包囲するなどした（庚戌の変）。
→明は、（ ）を修理・補強して、モンゴルの攻撃を防ごうとした。
→アルタン=ハンは、長城の外にフフホトなど中国風の城郭都市を作らせた。



エセン=ハン

オイラトの指導者でモンゴルを統一した。中国侵入の真の目的は、征服というより明との朝貢貿易拡大にあった。



正統帝(英宗)

まだ 22 歳だった正統帝は、宦官におだてられて戦争に踏み切り、あげくのはてに捕虜となった。ただしエセン=ハンには丁重に扱われ、後に帰国した。



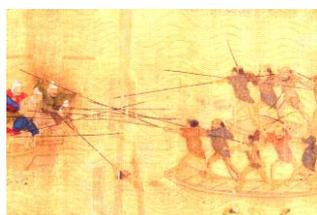
明代の万里の長城

万里の長城と聞いてイメージするのは、明代の長城である。元々は戦国時代に趙や燕が匈奴対策に建造したものを、秦の始皇帝がつなげて完成させた。

2 南倭

- ・日本の鎌倉幕府の力が衰えると、地方武士などが勝手な行動をとるようになった。
→中国や朝鮮の船や沿岸を襲うなど、海賊行為や密貿易を行うようになっていた。
※これを（ ）といい、中国人の（ ）が有名である。
- ・前期倭寇は日本人が中心となったが、後期倭寇は中国人が中心となった。

- ・明は、洪武帝の時代に（ ）により民間の貿易を禁止して朝貢貿易のみ認めていたが、倭寇の活動が活発化する結果となった。
→明は、倭寇の取り締まりと正式な交易を求めて、日本に使者を送った。
→1401 年、室町幕府の（ ）はこれを受け入れて国交を樹立した。
- ・この朝貢貿易は日明貿易と呼ばれるが、正式な船と倭寇を区別するため、勘合符を持つことが義務付けられていたため、別名で（ ）ともいう。
- ・1523 年、日本の細川氏と大内氏が貿易をめぐる衝突した、寧波の乱が起こった。
- ・16 世紀後半、明は海禁をゆるめて民間貿易（互市）を認め、モンゴルとも和解し、交易を認めた。



倭寇

倭寇とは、「倭(日本)による侵略」という意味で、後には海賊そのものを意味するようになった。ただし略奪だけでなく、密貿易も多く行った。



王直

王直は 16 世紀に日本の五島列島などを拠点として、密貿易を行った後期倭寇の伝説的な頭目である。種子島に鉄砲が伝来した際、通訳を務めたのも彼らしい。



足利義満

室町幕府の第3代将軍で、南北朝を統一した人物。勘合貿易が始まったのは、永楽帝の時代であり、足利義満は日本国王に封じられた。

3 明の衰退と改革

- ・16世紀になると、北虜南倭に対する防衛費の増加などで、明の財政は急速に悪化していった。



万曆帝
張居正の死後は、
宦官を重用した。

- ◆ () (在位 1572~1620年)
- ・内閣大学士として () を起用し、改革を行わせた。
→張居正は、兩税法に代わる税制として () を全国で施行するなど、財政改革と中央集権体制の実現に努めた。
→しかし地方の反発を招き、張居正の死後、改革の成果はすべて無になった。

- ・16世紀の明では、() やアメリカ大陸の () から持ち込まれる () が、通貨として流通するようになっていた。
→そのため土地税と人頭税を一括して銀で納める一条鞭法を施行した。



張居正

能力は間違いなく高かったが、改革のためにライバルを蹴落としていくようなところがあり、非常に憎まれていた。



馬蹄銀

銀はコインとしてではなく、重さで量って使用された。馬の蹄の形をしているので、この名前がついた。

4 明の末期症状

- ・1592年、日本の () による、朝鮮侵略が始まった。
※日本では () 、朝鮮では () という。

- ・日本軍は連戦連勝で、あっというまに都の漢城を征服した。
→明は朝鮮に援軍を送り、朝鮮も將軍 () が () を用いて戦い、義兵が抵抗するなどして、徐々に日本は後退を余儀なくされた。
→豊臣秀吉の死後に日本は撤退して和解したが、朝鮮や明も大きな打撃を受けた。
- ・江戸幕府が成立すると、朝鮮は () を日本に派遣した。



豊臣秀吉

農民出身で、織田信長に仕えた後、天下を統一した。秀吉は、明を征服して天皇を北京に移すことまで考えていたらしい。



李舜臣

イ=スンシンと読む。現在でも韓国の国民的英雄とされている。各地に残る李舜臣像は、全て日本の方向を向いているらしい。



亀甲船(亀船)

亀甲船は、上部に尖った部分に取り付けられていたとされる。伝説的な部分が強すぎて、実際どのような船であったかは、はっきりとわかっていない。

- ・そのころ中央では、() など () を拠点とする () が大きな政治勢力となっていた。
→魏忠賢など宦官中心の () と激しく対立した。
→この党争によって政治は麻痺状態になっていった。



魏忠賢

明は宦官による政治の乱れが目立つ王朝である。魏忠賢は東廠という秘密警察を操って、絶大な権力をにぎった。